

Artist Profile

プロフィール

村澤 由利子

Yuriko Murasawa (Piano)



東京藝術大学附属高校を経て東京藝術大学ピアノ科を卒業。1989年文部省長期在外研究員としてドイツ、エッセン・フォルクバンク音楽大学に留学。リサイタル、室内楽、協奏曲、湯山昭の合唱組曲「四国の子ども歌」「阿波物語」を徳島少年少女合唱団と初演、及びCD録音、湯山昭の「ピアノトリオ」をドイツで初演、ザルツブルク・ミラベル宮殿で湯山昭のピアノ曲を初演するなど、ピアノ協奏曲やリサイタルをヨーロッパ各地で演奏。また、連合大学院兵庫教育大学博士課程教授、鳴門教育大学大学院教授として、教育、研究、論文執筆、指導を行う傍ら多彩な演奏活動を行う。

これまで、ベルリン弦楽四重奏団、日本フィル、ウィーン弦楽トリオ、ウィーン・フィル首席奏者によるウィーン木管アンサンブル、ヤナーチェク・フィルハーモニー管弦楽団、ワルシャワ国立フィルハーモニー首席奏者、フランス国立トゥールーズ室内管弦楽団他と、日本およびヨーロッパ各地で多数共演、海外でのピアノ協奏曲の出演も多い。

ベルリン・フィル首席奏者で結成された「フィルハーモニア・カルテットベルリン」とは2016年5月まで、7回にわたりシューマン、ブ

ラムス、ドヴォルザーク、フランク、ショスタコーヴィチなどの様々な「ピアノ五重奏曲」を共演、彼らの信頼は篤く、そのアンサンブルは定評がある。

鳴門市及び、姉妹都市のドイツ・リューネブルク市では、ハノーファー国立歌劇場オーケストラコンサートマスター、ミヒャエル・ヴィルト氏と6回のデュオコンサート、リューネブルク・シンフォニカーとグリークのピアノ協奏曲を共演、首席チェリストとデュオリサイタルを開催する。

「ワルシャワ・フィル コンサートマスターズ」と、これまで2001年東京「カザルスホール」、2007年ポーランド・ワルシャワ「ワルシャワ国立フィルハーモニー室内楽ホール」、2012年「大塚国際美術館・システィーナホール」、2018年「大塚ヴェガホール」等で共演、海外でも好評を博し、今回は5回目の共演となる。

2025年4月「瑞宝中綬章」(教育研究功労)を授章。

鳴門教育大学名誉教授「今堀賞受賞」、鳴門日独友好協会会長、リューネブルク独日協会名誉会員、東京藝術大学音楽学部同声会理事、全日本ピアノ指導者協会正会員、日本演奏連盟会員

ワルシャワ・フィル コンサートマスターズ

Concert Masters of The Warsaw National Philharmonic Orchestra

ピオトル・ツェギエルスキ Piotr CEGIELSKI (Violin)

ワルシャワ国立フィルハーモニー管弦楽団 元コンサートマスター

1975年、モスクワのP.チャイコフスキー音楽院でダヴィッド・オイストラフのクラスを卒業。1979年キエフのヴァイオリン・コンクールに入賞、1979年から1991年まで当地の国立オペラ・バレエ管弦楽団のソリスト・コンサートマスターをつとめる。1991年より2018年までワルシャワ国立フィルハーモニー管弦楽団のコンサートマスターとして、ヨーロッパ諸国をはじめアメリカ、カナダ、日本、韓国などを演奏旅行で訪れている。一方、ソリスト・室内楽奏者としても活躍しており、1997年には名古屋で開催された国際室内楽フェスティバルの開幕に参加した。また1998年12月にはワルシャワ国立劇場にて、国際的に名声の高いナイジェル・ケネディとJ.S.バッハの“2つのヴァイオリンのための協奏曲”を共演した。



ロベルト・プトフスキ Robert PUTOWSKI (Violoncello)

ワルシャワ国立フィルハーモニー管弦楽団 チェロ・ソロイスト

ワルシャワ生まれ。フレデリック・ショパン音楽アカデミー在学中、青少年のためのポーランドチェロ・コンクール(エルブロンク)、第1回ヴィルト・ルトスワフスキ国際チェロ・コンクール(ワルシャワ)等数々の主要コンクールにて優勝。2003年ユトレヒト音楽院を首席で卒業。在学中、スウェーリング・コンクール(アムステルダム)にて受賞、リシャルト・ホル賞を授与される。1997年よりイベリア・チェロ八重奏団にて活躍、2008年から2009年まで首席チェリスト兼芸術監督を務める。ソリストとしても活躍する傍ら、アムステルダム・シンフォニエッタ、シンフォニア・ロッテルダム等にゲスト首席チェリストとして招かれており、多くの音楽祭にも招待されている。2012年1月、当時のチェロ・コンサートマスター、カジミエシュ・コシュラッチ氏の定年退職に伴い、ワルシャワ国立フィルハーモニー管弦楽団のチェロ・ソロイスト(首席チェロ奏者)に就任した。

